

令和4年度 第2回三島市図書館協議会 会議録 [概要]

1 開催日時

令和5年2月21日（火）午後1時30分から午後2時45分まで

2 開催場所

生涯学習センター3階 市民ギャラリー

3 出席者

(1) 委員（順不同）

段 千恵子、白井 由美子、西山 敦子、井上 雅晴、竹山 美奈子、西島 真美 計6名

(2) 事務局

西島教育長、鈴木教育推進部長、米山館長、下館館長補佐、中島館長補佐、市川主幹、志村主任司書、越沼司書、菊地副主任

4 会議の公開・非公開の別

公開

5 傍聴人の人数

0人

6 会議の内容

(1) 開会

(2) 教育長挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 議事

① 令和4年度 図書館利用状況について

② 令和5年度 事業計画について

議事①及び②について事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

（ 委 員 ）	図書館講座では、コロナによる人数制限は行ったのか。
（ 事 務 局 ）	講義室の定員が150名のところ、半数の75名で募集した。
（ 委 員 ）	来年度はどうするのか。
（ 事 務 局 ）	現在のところは、定員の150名で実施する予定。
（ 委 員 ）	Zoom等によるオンライン配信の計画はあるか。
（ 事 務 局 ）	昨年度に実施したところ大変好評だったが、今年度は、諸事情により実施することができなかった。オンライン配信は、多くの市民に同時に情報を発信できるメリットがあるため、配信することがふさわしい内容のものについては、講師とも相談し、積極的に取り入れていきたい。
（ 委 員 ）	オンライン配信は、コロナ禍が生み出したよい取り組みだと思う。

(委 員)	市立図書館は、若者の利用が少ないというイメージがある。本を読む機会が少なくなっているという理由もあるだろうが、この点に関して、何か方策はあるか。
(事 務 局)	勉強や部活等で忙しいのか、従前から、中高生の利用が少ないという課題がある。企画展示など、学校との連携の機会を活かしていきたい。
(委 員)	学校図書館には目当ての本がなかったが、市立図書館に行ったらあったという体験などが積み重なれば、もう少し利用が増えるかもしれない。
(委 員)	図書館利用者講座（大人の図書館探検ツアー）に、定員の3倍の応募があったとのことだが、このような形で開催するようになったのは昨年度からか。
(事 務 局)	お見込みのとおり。令和2年度までは、データベースやホームページの利用法などをテーマとして、座学のような形式で開催していた。昨年度から、閉架書庫を案内したり、ブックコートをかけたりといった体験型に変えたところ、魅力を感じられる方が多くなったようだ。
(委 員)	ワークショップ形式はポテンシャルが高いと思う。ここでいう「大人」とは、何歳からを想定しているか。
(事 務 局)	これとは別に実施している「子ども図書館たんけんたい」の対象は小学生なので、中学生以上の方から参加の希望があれば受け付ける。
(事 務 局)	図書館に関心をもってくださっている方が多いということを実感したので、仕事をされている方も含め、より多くの方が参加できる形を考えていきたい。
(委 員)	不登校など、子どもが心を閉ざしてしまっているような時にこそ、良い本に出会ってほしいと思う。市立図書館のホームページに、中高生がどのくらいアクセスしているかを知りたい。スマホなどで調べて、欲しいジャンルの本があるのが分かれば、中高生も市立図書館に足を運びたくなるのではないか。インターネット上に「カーリル」という、全国の図書館の蔵書と貸出状況が横断検索できるサービスがあり、よく利用しているが、こういったものを知らない方もいらっしゃるので、「ホームページの利用法」をテーマにした講座は有効だと思う。 また、中学校で「職業講話」という授業があり、先日は自分も参加したが、職業や進路について考える時期に、関連する書籍に関する企画が実施されていたりすると、図書館に興味を持つかもしれない。高校で始まった「探求学習」でも、図書館を通して良い本に出会う機会が設けられるといいと思う。

(委 員)	本校でも「探求学習」を実施しているが、インタビューのための下調べはインターネットが中心で、書籍で調べることが抜け落ちているように感じる。図書館の価値を理解していないようであり、図書委員ですら、図書館に足を運ばない現状がある。まずは図書委員が市立図書館を訪れる機会をつくれば、そこから発展していくのではないかと思う。
(委 員)	学校図書館は、本を借りるだけではなく、勉強をしたり、友達と時間を過ごしたり、不登校の子ども居場所となったりと、様々な顔がある。学校図書館は利用しているが、地域の図書館には行ったことがないという子どもは多い。企画展示の「中学校生徒がおすすめる本」については、地域の方や保護者にも、学校だよりを通して、市立図書館に足を運んでくださいとのアナウンスを行っている。 来年度は、「そよかぜ学習」の中で、市立図書館の司書による本の紹介と読み聞かせなどを実施する予定であり、子どもたちが地域にある図書館にも目を向けられるよう、学校からの発信もさらに推進していく必要があると感じている。
(委 員)	「静岡県子ども読書アドバイザー」の名簿が公開されているので、機会があれば活用していただきたいと思う。 また、先日、民間の「あひる図書館」で、中高生によるビブリオトークが開催されたが、運営団体である「ママとね」は、インターネットを上手に使って発信力がある。「あひる図書館」の活動を、市立図書館としてはどのように受け止めているか。
(事 務 局)	足を運ぶ最初のきっかけをつくるのが難しいところなので、今後、市立図書館としても、SNSの活用は視野に入れていきたい。読みたい本やジャンルにたどり着けるよう、ホームページの利用法を宣伝するなど、基本的なことからしっかりとやっていきたい。

③ 図書館の新機能について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

(委 員)	自動貸出機が導入され、窓口の職員と話をする機会が減ったのは少し寂しいとか、案内役の職員がいるので安心という声などを聞いた。
(委 員)	ブックポストに入れた本は、自動で返却処理されるのか。
(事 務 局)	ブックポストには、自動返却機のような機能は備えていない。

④ その他

生涯学習課より依頼のあった、三島市民生涯学習センター運営委員会委員の推薦について、事務局に一任することを決定した。

(5) 閉会